

吉川です。今回、雪山の雨を嫌い、笈ヶ岳を土壇場で中止した。引き出しの多い柘植さんをお願いしたところ、越後三山前衛の里山の計画書が 30 分足らずで届いた。地図を用意して、翌早朝小出に向かった。急遽変更した山とは思えない雪山と藪のミックスで充実した山行ができました。

【山域】越後魚沼 【ルート】大カ山～笠倉山～鳴倉山周回

【登山方法】雪山登山 【メンバー】CL 柘植、澤田淳子、吉川(記)

【行程】4/18 土気 4:30-穴川 IC-関越道-小出 IC-宝泉寺駐車 9:40-大カ山 10:30-黒禿の頭 13:00-笠倉山 14:15/14:30-黒禿の頭 15:25 (幕営)

4/19 黒禿の頭幕場 5:25-駒の頭 6:20-トヤの頭 8:00-鳴倉山 9:00-宝泉寺 10:15-薬師の湯-小出 IC-関越道-帰葉

【内容】4/18 (晴れ)

1000mに満たない里山に雪があるのか気がかりながら、関越トンネルを抜け小出 IC を降りると田んぼや山の稜線には雪はしっかり残っていた。宝泉寺の除雪してある庭先に駐車させていただき、杉木立の尾根に取り付く。



締め気味のザラメで歩きやすい。お堂の脇を通り標高差 300m 程なだらかな尾根を進むと東屋がある、大カ山山頂は、そこから、300m 先にあるらしいが、雪で埋まっていてわからなかった。雪が解けた稜線にはカタクリやイワナシのつぼみが姿を現し、イワウチワ、ショウジョウバカマの花が咲き始めていた。



大カ山の先で西に尾根を下す板木城址コースを見送り雪庇の張り出し上や灌木の登山道のアップダウンを繰り返し、黒禿の頭に立つ。ここを今日の幕場と決め、笠倉山をピストンした。踏み跡のあるヤブ

を下り切ると、林道を跨いで直ぐ、笠倉山へのブナと雪原の尾根に乗り雪の解けた滑る登山道を経て笠倉山の山頂に出た。



4/19 (晴れ、薄曇り)

真近に仰ぎ見る越後三山（八海山、中ノ岳、駒ヶ岳）は‘はなこさん’と呼ぶらしい。起伏が激しく、蛇行する尾根は行けそうにないが、駒ヶ岳に続いていた。かすかに頸城山塊も望む。素晴らしい展望を後に、幕場の黒禿の頭の下る。テント設営時頃の強風も、楽しい夕食時は、静まり暗くなると、小出の町が宝石のようにキラキラ輝いている。何時ものように感動する。



黒禿の頭から北に延びる稜線を下り、駒の頭に向かう。名前から想像できる黒禿の頭、笠倉山を時々振り返りながら、踏み跡を辿るが、急に踏み跡は不鮮明になり、針葉樹の比較的歩きやすい雪を踏み駒の頭の登りになると藪漕ぎとなった。途中で消える破線は、地図通りであったが、不思議に思える。駒の頭から西に向きをかえ暫く雪をつなげて進みブナの気持ちの良い所もあったが、なだらかな下りから、藪漕ぎが始まり、行けども行けども登り詰められない植生の強い大藪に大汗をかきトヤの頭に出た。



駒の頭から、手の届く距離に思えたが、40分もの時間を要した。この先、鳴倉山の手前のピークにはっ

きりとした登山道に見えたので、ほっとしたが、藪漕ぎをしながら進むと、トラロープが下がり、崩れていた。ようやく鳴倉山に立つと景色が一変し樹木のない細長い雪原を歩く。その隅に、ジャンプ台があった。後で調べてみたら、ハングライダーの基地であった。突き分けコースと書かれた標柱に導かれ下って行ったものの一部藪漕ぎをしながら、集落に下山した。鳴倉山からの展望も感動ものだった。奥に白い山々を据え眼下の里から笠倉山まで長い穏やかなスカイラインを引き、始まったばかりのブナの芽吹きが色を添えていた。向きをかえ、下権現山、上権現山、毛猛山塊をも望めた。残雪の景色を堪能して麓では山菜も収穫できた。 頑張れば、日帰りで回れるコースでもありそうだが、ゆっくりテント泊を楽しみ、風呂、食事、道の駅で買い物までしても、関越道の渋滞を回避して帰れた。

